

艦載機の行方

厚木―岩国移駐

▷下

在日米海軍司令部（横須賀市）は10日午後8時（ワシントン時間）英文の発表文を各報道機関にメールで送った。8日午後、厚木基地（大和、綾瀬市）近くで部品落下事故を起し、自粛中だった電子戦機E A 6 B プラウラーの飛行を11日朝、再開させるという。

「訳されたものを読んだが、よく分からない部分もあった」とある市職員。県と基地周辺の9市は事故原因の公表を求めている。発表文には事故の予備調査は終わったとあるが、その結果については「available」と記されていた。「日本語では『入手可能』

不信感

納得のいく説明なく

という意味。他に別の言葉で置き換えられない」と司令部の広報担当者。誰が、いつどのように結果を「入手可能」なのか。取材に対して納得のいく説明はなかった。

大和署は事故翌日の9日、現場周辺の路上などで落下部品は「見つからなかった」としていた。ところが10日朝になって発見された34点の一部は、路上にもあった。エンジン周りの断熱材は「一見、普通の綿のようだが、不法投棄されたごみも多い現場周辺。どのような部品を落とされたのか米軍から十分な情報提供がなされなかった。綿状のものも部品という認識が署員になかったため見落とされたようだ。現場に破片を受け取りに来た米軍関係者は引き渡しの際、署員から身分証の提示を求められると、名を名乗り、制服の胸に記された名前を見せたものの、身分証の提示自体は拒否した。破片が発見された畑を管

た34点の一部は、路上にもあった。エンジン周りの断熱材は「一見、普通の綿のようだが、不法投棄されたごみも多い現場周辺。どのような部品を落とされたのか米軍から十分な情報提供がなされなかった。綿状のものも部品という認識が署員になかったため見落とされたようだ。現場に破片を受け取りに来た米軍関係者は引き渡しの際、署員から身分証の提示を求められると、名を名乗り、制服の胸に記された名前を見せたものの、身分証の提示自体は拒否した。破片が発見された畑を管

た34点の一部は、路上にもあった。エンジン周りの断熱材は「一見、普通の綿のようだが、不法投棄されたごみも多い現場周辺。どのような部品を落とされたのか米軍から十分な情報提供がなされなかった。綿状のものも部品という認識が署員になかったため見落とされたようだ。現場に破片を受け取りに来た米軍関係者は引き渡しの際、署員から身分証の提示を求められると、名を名乗り、制服の胸に記された名前を見せたものの、身分証の提示自体は拒否した。破片が発見された畑を管

た34点の一部は、路上にもあった。エンジン周りの断熱材は「一見、普通の綿のようだが、不法投棄されたごみも多い現場周辺。どのような部品を落とされたのか米軍から十分な情報提供がなされなかった。綿状のものも部品という認識が署員になかったため見落とされたようだ。現場に破片を受け取りに来た米軍関係者は引き渡しの際、署員から身分証の提示を求められると、名を名乗り、制服の胸に記された名前を見せたものの、身分証の提示自体は拒否した。破片が発見された畑を管

た34点の一部は、路上にもあった。エンジン周りの断熱材は「一見、普通の綿のようだが、不法投棄されたごみも多い現場周辺。どのような部品を落とされたのか米軍から十分な情報提供がなされなかった。綿状のものも部品という認識が署員になかったため見落とされたようだ。現場に破片を受け取りに来た米軍関係者は引き渡しの際、署員から身分証の提示を求められると、名を名乗り、制服の胸に記された名前を見せたものの、身分証の提示自体は拒否した。破片が発見された畑を管

発表文の日本語訳（抜粋）

米海軍は、来週予定される飛行隊の米国帰還の準備に運用上必要なため、プラウラー1機を明朝（11日）、飛行させる。当該機はしっかりと厳しく点検されており、安全に飛行できると判断されている。

プラウラーは8日、厚木基地への着陸時に機体外側のパネルを失った。プラウラー全機隊の飛行は9日10の両日、一時停止された。結果は日米両政府関係当局で定められた手順に基づいて入手可能にされる。米海軍はこの件が厚木基地周辺の住民や友人に迷惑、大変遺憾に思う。

はやめてほしいと話した。また11日、新たに金属片1点（20センチ×20センチ）が、基地から1.5キロほど離れた大和市上草柳の畑から見つかった。（県史総局）



プラウラー飛行再開

米海軍 綾瀬市長、強く抗議

米海軍厚木基地（大和、綾瀬市）のジェット電子戦機E A 6 B プラウラーから落下したパネルが走行中の乗用車に衝突するなどした調査結果が明らかになる前

の再開は極めて遺憾」と強く抗議するコメントを出した。同日午前10時10分ごろ、1機が基地北方に向かって離陸した。大和市基地対策課によると、午前11時ごろ

同基地に着陸したという。米海軍司令部は10日の発表文で、飛行再開の理由を「米国帰還準備のため」と説明。「厳しく点検し、安全に飛行できると判断された」としていた。

飛行経路の真下に当たる大和市上草柳のドッグランにいた40歳代の女性は「あれだけ大きなパネル（218センチ×107センチ）が人に当たったら死んでしまう。せめて原因が分かるまで飛行